

# 国立国語研究所学術情報リポジトリ

## 閉会のあいさつ

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-03-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 木部, 暢子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15084/00000932">https://doi.org/10.15084/00000932</a>

本日は長い時間どうもありがとうございました。第七回NINJALフォーラム「近代の日本語はこうしてできた」をお楽しみいただけましたでしょうか。

現在、私たちは当たり前のように標準語を使ったり、話しことはを使ったり、書きことはで文章を書いたりしています。それがたった二〇年ほど前、非常に大きな流れのなかで模索しながらできあがってきたことを、感じた次第です。

本日のフォーラムの内容は、文字化して冊子にすると同時に国立国語研究所のホームページにアップする予定です。また、これまで六回行いましたフォーラムの内容も、国立国語研究所のホームページでみるができますので、よろしかったらぜひご覧ください。

次回の宣伝ですが、本日のフォーラムでも、近代語にとつて漢字、漢語がとて大きな意味、役割を持っているという話でしたが、次回は「世界の漢字教育」というテーマで、九月二一日(日)にこの場所、一橋講堂で開催する予定です。日本語を学ぶ世界の方々が漢字をどうとらえているか、漢字教育はどうあるべきかが主なテーマとなります。次回もぜひお越しくください。

本日は足元のお悪い中、ありがとうございました。今後ともよろしく願っています。

